

小学生の部

最優秀賞

神奈川県知事賞

ぼくの病気と車いす生活

平塚市立大原小学校

四年 大和慶剛

ぼくは、ペルテス病です。この病気は、足の骨がうまく成長せずに一部が死んでしまうものです。子どもの間は治りようをすれば骨が生えてきます。そこでぼくは、治りようのために両足にそう具をつけ、病院に入院して車いすで生活をしました。

神奈川県立子ども医りょうセンターには学校があります。病気でベッドの上から動けなくても、ベッドをい動させて教室に行くことができます。入院しながら学校に通うことができます。ぼくも入院してそう具で治りようしながら車いすで登校しました。そこでは全く不自由ではありませんでした。車いすでの学校生活は、自分で何もできないようなイメージでし

たが意外にも一人で出ることが多くありました。例えば、黒板消しは長いほうがついていて高い所にもとどきました。本だなやロッカーは自分の手のとどく位置にありました。そして、学校のつくえはえん筆や消しゴムが落ちないように木のわくがはしについていました。そんな中で先生の助けもあり、不自由なく楽しい毎日をすごしました。

退院してから車いすで地元の小学校にもどると、不自由なことがたくさんありました。一番大変だったのが、エレベーターがないことです。でも、お母さんがぼくをだっこして階段をのぼってくれました。い動した先の教室にだん差があると先生がおしてくれました。えん筆を落としてしまうと、近くの友達が拾ってくれました。ぼくの目の前にあつた問題が色々な人の助けによってかい消していきました。

治りようが進んで、ぼくは車いすが必要なくなりました。このけい験を生かして、次はぼくが目の前に問題のある人に気付いて手を差し伸べたいと思います。